

彦豊川の詩 復興の詩

関東大震災で支援決意



賀川豊彦

徳島ゆかりの社会運動家・賀川豊彦(1888~1960年)が、関東大震災の復興支援に当たる決意を表明した詩の掛け軸が27日までに見つかった。賀川豊彦記念・松沢資料館(東京都世田谷区、加山久夫館長)が確認した。全集などにも収録されておらず、賀川の受けた衝撃と、救援への使命感を物語る貴重な資料だ。

掛け軸は「血がこみあげてくる、永遠に若いおまへの血が、おまへの血は私の血だ、おまへは死んだ、そして私等は甦らされた、誠におまへの途は尊い途で有った 私はおまへのために六千度の太陽の熱を受ける」という詩に、「一九二三年九月 賀川豊彦」の日付と署名がある。

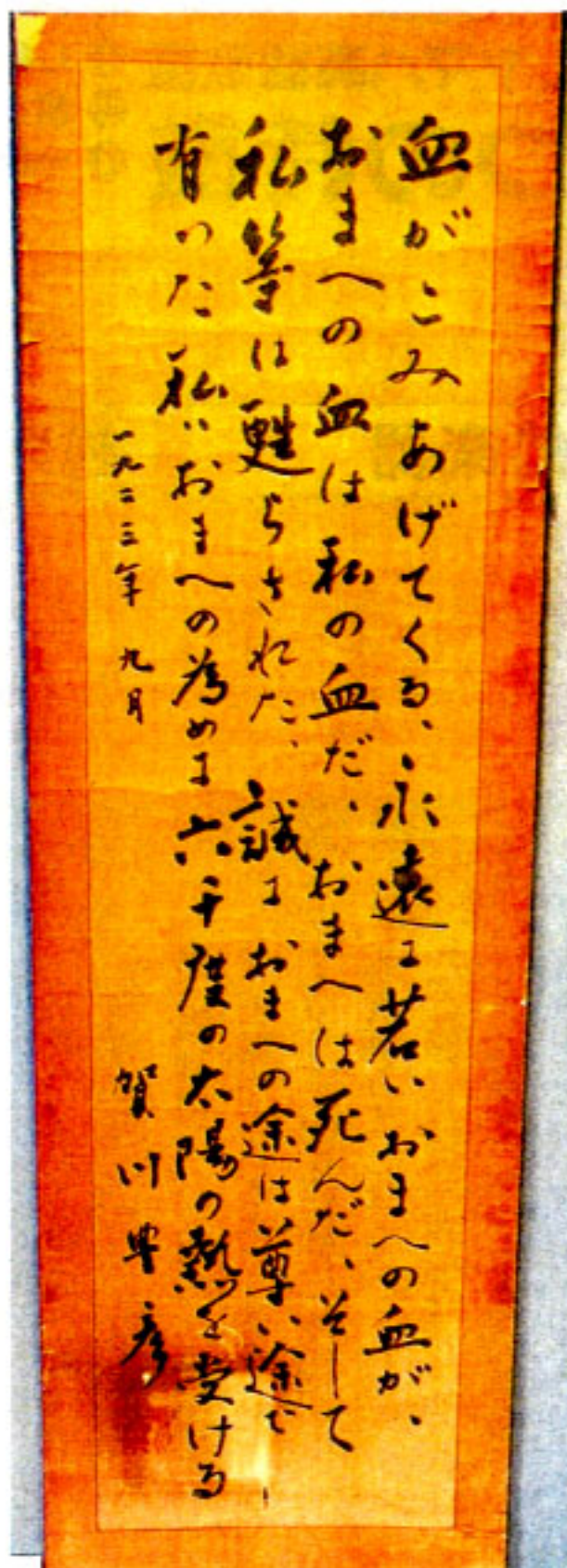
同館によると、3月に古書店から購入し調べていた。押された落款は賀川が当時、活動拠点だった神戸で使っていた印であることが分かった。賀川の揮毫は勢いのある崩し字が多いが、この書で

東京の記念館 掛け軸発見

は楷書体。目の病気にか

京に入り、被災状況や二
かつていた賀川が、てい
ースを調べ数日後、神戸
鳴門市賀川豊彦記念館
ねいに書いたか、妻のハ
に戻った。その後、約1
の田辺健二館長は「関東
ルなど身近な人が代筆し
カ月間、西日本各地で義
大震災でいち早く被災地
たと同館は見ている。 援金を集めるため講演。に駆け付け、精力的に救

詩の「おまへ」は、目
10月から東京・本所で、
援活動を行った賀川の思
上の人を呼ぶ尊敬表現
吹き出し、布団や衣服の
いが読み取れる。困難か
で、牧師の賀川がキリス
配給、入浴サービスなど
ら逃げずに真正面から立
トによる罪のあがないと
を始めた。被災者の自立
ち向かうプラス思考の考
復活に重ねて、東京や日
支援のために立ち上げた
え方だ。東日本大震災が
本を指したとみられる。 事業が現在、信用組合、発生したこの時期に発見
賀川は23(大正12)年 病院、社会福祉法人など された意義は大きい。震
9月1日に起きた関東大 災復興への励ましのメッ
震災の翌日、材木などを 掛け軸は10月31日ま せーじになる」と話して
船に積み神戸を出港。東 で、同館の特別展で展示 いる。



賀川豊彦が関東大震災の惨状を見て救援の意思を表明した詩の掛け軸(東京都の賀川豊彦記念・松沢資料館)

の体験などを元にした自伝的小説「死線を越えて」は、3部作で計400万部のベストセラーに。労働争議、農民組合の結成、協同組合の組織化、平和運動などに尽力した。

賀川豊彦 社会運動家、キリスト教伝道者。神戸市生まれ。旧制徳島中、明治学院、米プリンストン大などで学ぶ。神戸市新川のスラムで暮らしながら、伝道や貧困救援活動に従事。そ